病院長挨拶

病院長　丹野　誠志

病院名の「イムス」は，当院が国内最大級の医療グループであるIMSグループ（Itabashi Medical System：板橋中央総合病院グループ）に属する病院であることを意味しています。そして，病院名の「札幌消化器中央総合病院」は，消化器分野を強化し全面に打ち出した特徴ある病院でありながら，あくまで「総合病院」として，複数の診療科による総合的医療，そして質の高い診断治療を提供する病院であることを表しています。当院は，地元や北海道内はもちろんのこと，国内で広く知られ，患者様から厚く信頼される病院になることを目指してまいります。

当院では，2017年1月に既存のA棟B棟とは別にC棟をオープンさせ，手術室を3室とし，救急関連設備を増築することで，急性期総合病院に向けた強化を行ってまいりました。それに伴って，医師数につきましても消化器内科は13人，外科は6人，病院全体では医師数29人の体制へと強化しました（2018年4月現在）。当院は，「質の高い専門医療の提供を行う病院」を特徴に掲げながら，「イムス札幌消化器中央総合病院」の認知度強化，患者様から信用され選ばれる病院になるための医療体制の整備，病院全体の医療レベルと安全性の向上を目標に，患者様・医療者の双方にとって魅力ある病院になれるよう努力してまいりたいと思います。

今後ともご指導ご鞭撻の程どうぞよろしくお願い申し上げます。

～消化器内科の紹介～

当院の消化器内科は医師数13名の体制で、あらゆる消化器疾患に対応し、きめ細かな医療を患者様に提供できるよう日々診療を行っています。当科の特徴として、消化器内視鏡を用いた診断と治療、血管内カテーテル検査や治療など、難易度の高い技術を駆使した低侵襲で専門性の高い消化器診療を実施していることが挙げられます。消化器内科は最新の専門医療を行うため、①すい臓、胆道グループ、②肝臓グループ、③消化管グループに別れて診療を行っています。それぞれに3～5名の医師が所属し、さまざまな疾患を対象に専門的診療を行っています。最近では、当科の岸宗佑医師をセンター長として、新たに血管内留置デバイスセンター(VAD)を開設しました。これは、中心静脈カテーテル(CVC)やCVポート、末梢挿入型CVC(PICC)など、身体に埋め込む血管内留置デバイスを専門的に取り扱う全国的にも新しい取り組みで、特別に考案された手技によって、高い満足度が得られるように取り組んでいます。また4月からは当科の上野敦盛医師をセンター長として、化学療法センターを立ち上げました。化学療法を必要とする消化器癌の患者様は増えておりますので、化学療法センターがそれらを統括して、患者様の治療がさらに円滑に進むよう努めて参ります。

すい臓、胆道グループ

胆石(胆嚢結石、総胆管結石)、膵石、急性胆嚢炎、急性胆管炎、閉塞性黄疸、急性膵炎、急性肝炎など

担当医師　丹野(たんの)　誠志(さとし)(院長)　野村(のむら)　友祐(ゆうすけ)　岸(きし)　宗佑(そうすけ)　二川(ふたかわ)　憲昭(のりあき)　豊川(とよかわ)　揚也(あきや)

肝臓グループ(肝臓病センター)

急性肝炎、肝臓がんをはじめとする様々な肝疾患に対応可能な体制を整えております

担当医師　葛西(かさい)　和博(かずひろ)(副院長)　葛西(かさい)　幸穂(ゆきほ)　春野(はるの)　豊明(とよあき)

消化管グループ

消化管出血(吐血、下血)、急性虫垂炎、急性胃腸炎、腸閉塞、出血性胃潰瘍、胃潰瘍、十二指腸潰瘍、逆流性食道炎など

担当医師　上野(うえの)　敦盛(あつもり)　金野(こんの)　陽高(ようこう)　平池(ひらいけ)　則雄(のりお)　平田(ひらた)　翔(つばさ)　山本(やまもと)　浩(ひろし)

化学療法センター

担当医師　上野(うえの)　敦盛(あつもり)

VAD(血管内留置デバイス)センター

担当医師　岸(きし)　宗佑(そうすけ)